

1 事業概要

事業の名称	東京都市計画道路 環状第4号線	評価該当要件	10年間継続	1回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課	
都市計画決定(当初)	昭和20年度	事業認可年度(当初)	平成22年度	事業期間: H22年度~H28年度
都市計画決定(最新)	昭和20年度	事業認可年度(最新)	平成28年度	事業期間: H22年度~R3年度
事業箇所	新宿区富久町 ~ 余丁町	事業規模	延長 330m	
事業概要	・環状第4号線は、区部環状方向の重要な幹線道路である。このうち本事業区間は、新宿区富久町から余丁町までの延長330mの区間である。 ・本事業により、幹線道路ネットワークが強化されるとともに、周辺地域の道路交通の円滑化が図られる。また歩道は電線類の地中化及び街路樹の植栽を行うことで、快適で安全な歩行者空間が形成され、都市景観が向上する。			

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

<p>社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)</p> <p>(社会経済情勢の変化) 本路線周辺の平成27年度の現在交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。</p> <p>○現況自動車交通量【都道433号】(道路交通センサスによる) 平成22年度: 9,496台/12h 平成27年度: 9,427台/12h</p> <p>(事業を取り巻く状況の変化) 本線起点部南側で、市街地再開発事業を実施・完了 都市計画決定 平成20年10月 組合設立(事業計画)認可 平成21年11月 施設建築物竣工 平成27年9月 組合解散 平成30年9月</p> <p>(関連する他事業等の進捗状況の変化) 環状第4号線のうち、隣接する放射第6号線~放射第25号線までの延長約330m(河田町地区)は平成13年度に事業着手しており、用地を約99%取得している。 また、大久保通り~早稲田通りまでの延長655m(夏目坂地区)は平成29年度に事業着手した。</p>

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	2.0		
現在価値化総便益額(B)	152.5億円	現在価値化総費用額	74.4億円
走行時間短縮便益	138.8億円	工事費	32.5億円
走行経費現象便益	13.1億円	用地費	39.6億円
交通事故減少便益	0.6億円	維持管理費	2.3億円
定性的効果	<交通> ・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・迂回交通の減少 <暮らし> ・公共施設へのアクセス向上 <安全> ・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保 <景観> ・都市景観の向上 <防災> ・緊急車両の走行 ・災害時の避難路の確保		

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (H30年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,092百万円	1,243百万円	6,335百万円
執行済額	4,803百万円	309百万円	5,112百万円
(執行率)	94.3%	24.8%	80.6%
用地取得状況 (H30年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)		用地取得率(B/A)
8,300㎡	4,350㎡		52.4%
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
・本事業は、現道のない新設道路の整備であり、地権者が多いことから土地の取得に時間を要している。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
・進捗率 用地は約52%取得している。 ・残事業 未取得用地の早期更地化を目指し、折衝を進めている。			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
・引き続き、用地取得を進める。 ・順次、工事に着手していく。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性) ・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。 ・平面の街路築造工事であり、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。
その他のコスト縮減の取組
・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用などにより、コスト縮減に努めていく。

7 対応方針案

総合評価	本路線は区部環状方向の路線であり、都市の骨格を形成する重要な幹線道路である。本区間の整備により、交通渋滞の緩和、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上等、様々な面で十分な整備効果が期待できる。中止の場合は、上記の整備効果を発揮できないだけでなく、これまでの投資に見合った効果も得られなくなる。
対応方針案	継続